

上智大学通信

毎月1回20日発行 定価1部20円
編集・発行 上智大学広報課

東京都千代田区紀尾井町7-1
〒102 電話03-238-3180

No.95

上智大学通信

第95号 昭和56年(1981年)3月25日発行

◇主な内容◇

【一面】よき執事たれ
ヨゼフ・ピタウ

【二面】履修登録方法の
一部変更 ヨハネ・パウロⅡ
世本学を訪問

【三面、五面】昭和55年
度就職総覧と内定先一覽

【六面】今後の社会生活
に期待をもつて 地域ソフィ
ア会

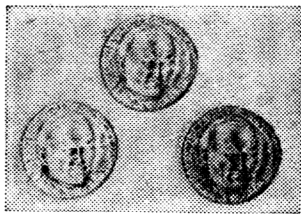
【七面】昭和56年度入試
状況 課外活動―探検部 私
の言葉

【八面】隨筆 先生の本
共同研究 海外研修―山下邦
晴





WELCOME POPE JOHN PAUL II



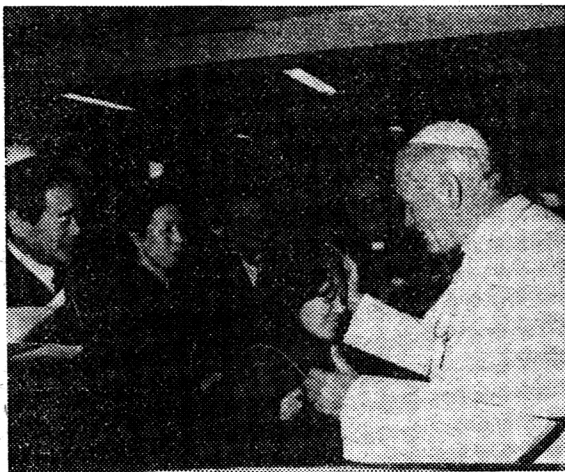
ヨハネ・パウロ二世 本学を訪問

—早朝のハプニング—



(上) ポーズをとってにこやかに熱弁をふるわれた。

(左) 参加者にやさしく祝福をなさる教皇様。



去る月二十五日 午前七時二十分、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世が本学を訪れた。これは、来日四日間の日程には組まれていなかったこと。会場に於てられた七号館特別会議室には五百名ほどの参加者が早朝からつめかけ、立錫の余地もないほど混雑した。聖歌斉唱の後、ローマ教皇入場。まず、ピタウ学長より「上智大学は創立当初から、教会と教皇様への忠誠と愛をその特徴として誇ってきている。」とこの訪問歓迎のあいさつがあった。これに対してローマ教皇より英語でメッセージが述べられた(別掲)が、終始ユーモアにあふれた口調で会場は笑いの渦に包まれた。メッセージを終えると、参加者のひとりひとりに祝福をされながら、退場なさった。

教皇来日中の資料

「ヨハネ・パウロ二世来日記念資料」(1-9・持出禁)のファイルが、聖三木図書館で保管されている。この資料は、主に教皇来日期間中の新聞切抜き記事(英・独・日)をまとめたもの。同図書館での閲覧及びコピーができる。詳しくは上智会館二階、聖三木図書館(TEL 二三八一三五四五)まで連絡のこと。なお、平日の開館時間、午前十時～午後六時。

今日までお話しするために皆さんと準備して頂いた。長先生は有利な立場にいられます。私の方は分がわるいです。(笑声)しかし、まず最初

に申し上げなければなりません。午前七時という時間に大学の集まりに出かけるという

こと、そのために立派な先生方、カトリック大学学長、他大学学長、教授、イエズス

会士さえも(笑声)、そして、こんなに沢山の若い人たちが、学生諸君が早朝六時に起床しなければならなかったという。これは、本当に申し訳ないと思

います。(笑声)ですから私の

は誰もいない部屋だけを見ることを予想してまいりました。ここにコミュニティを目的に前

にしまして、お集まりの皆さんに感謝の言葉を申し述べたいと思います。

学長先生のおっしゃったことは正しいです。私はこれまでも、そして今でも大学というところに対して、私の興味と

いうこと、そのために立派な先生方、カトリック大学学長、他大学学長、教授、イエズス会士

も(笑声)、そして、こんなに沢山の若い人たちが、学生諸君が早朝六時に起床しなければならなかったという。これは、本当に

ローマ教皇メッセージ

たは夢の一つは一度上智大学に招かれることでした。(拍手) 私は以前に一九七八年より前に日本に関連した二つの願いをしました。一つは

その私の生涯における願ひです。私たちは旧約聖書の中でソフィアという言葉を何回も

マクシミリアン・ユルベ神父が働いていた場所を見ることが、他の一つは上智大学を訪

存在しているのです。しかし旧約聖書のソフィア、皆さんへの準備なしの私のメッセージはこれです。

皆さんに期待して教えます。これは、教会に